

## ○ 修了者の進路の基本的な考え方(※新規事項)

修了者は、病院においては高度医療の推進に携わる各種専門薬剤師を目指す薬剤師となることが期待され、保険薬局においては地域医療やセルフメディケーションの中心となるジェネラリストとしての薬剤師となることが期待される。また、大学院における研究の経験を踏まえて、医療における様々な問題を解決する能力を発揮し、臨床研究・疫学研究を推進することで薬物療法における多くのエビデンスを創出できる薬剤師となることも期待される。

一方、医療の現場ではなく、医療薬学に関連する研究者や教育者を目指すことも社会にとっては必要である。すなわち、大学院における研究を通じて修得した知識や技術を基にした新薬の開発や患者のニーズに即した新規剤形の開発等に携わる研究者となることが期待される。また、医療現場における経験を有する社会人大学院生には、研究を通じて問題抽出・解決能力を高め、これを活用した後進の育成に関わる指導者となることが期待される。

### 《点検・評価》

4年制博士課程の完成年次は2017年度であるため、まだ修了者はいないが、実務家教員でありながら学部学生の教育に携わっている社会人大学院生は、これまでほとんど行ったことのない基礎研究を通じて、臨床における問題点を薬剂的視点から解決する手法を身につけてつある。また、病院薬剤師でもある社会人大学院生についても、所属施設での臨床業務における問題点を、動物や細胞を用いた基礎的研究や大学の各種大型機器を利用した解析等を行うことによる解決の方向性を見出す努力を進めており、修了後、研究成果が臨床上の応用へ発展することが期待できる。